

「おっふっふっふっ…締り…」

「んんッ…ふっんぐッ!!」

「こんな時間にランニングなんて
ちよつと危機感なかったな(笑)」

「ん…ぐ…ッ」

「ふっ…ふっ…」

「あーやべえ…そろそろいき…そ…
種付け…種付けいくぜ…ッ」

「ッ!?!」



すぢぢぢ

すぢぢぢ

「んんッ!!
んんッ!!」

ぶん

びゅ

ぶん

びゅ

ぶるん

びゅん

「く...おお...
種付けてって言ったなら...締りが...ッ
そんなに種汁欲しいのか?
待ってな今たっぷり注いでやるからよ」

ぶるん

「んんッ!!
んんッ!!」

「射精すぞ射精すぞッ!!
孕めッ俺のガキ孕めえええッ!!」

ずちゅ

ずちゅ

ずちゅ

「はあ〜…種付け気持ちい〜…♡」

「ふー…ツ
ふー…ツ」

「ふい〜…さてと…
……ああ俺俺
すげえ良い女手に入ってよ
だからわりい車頼むわ」

「んツ!」

「うしッ
迎えがくるまでに
もう二発種付け決めてやるぜ(笑)」

「ふツんんツ!
ツーんん
ツ!!」







